

IAUD Newsletter vol.9 第3号(2016年6月号)

1. 2015年度IAUD成果報告会開催報告.....1
2. 講演概要「クリエイティブ産業政策の現況とUD」.....7
3. IAUDアワード2016募集開始のご案内.....10
4. 第6回国際ユニヴァーサルデザイン会議2016 in 名古屋開催のご案内.....11
5. IAUD6月の予定.....11

2015年度を総括し12月の国際会議につなげる

2015年度IAUD成果報告会開催報告



2015年度のIAUD活動を締めくくる「2015年度IAUD成果報告会」が5月12日(木)にNEC本社B1F講堂(東京・芝)で開催され、会員やメディア関係者など165人が参加し盛況のうちに終了しました。

当日はIAUD総裁の瑤子女王殿下にご臨席いただきお言葉を頂戴したほか、経済産業省商務情報政策局生活文化創造産業課の藤原宗久良氏による講演「クリエイティブ産業政策の現況とUD」を行いました。

その後、各委員会と研究部会による2015年度に実施された重要な取り組みが報告されたほか、今年12月に実施する「第6回国際UD会議2016 in 名古屋」のご案内も行いました。

また、同日午前中には「第12回初級講習会&検定試験」「第6回中級検定試験」を実施しました。

今号のNewsletterは、「2015年度IAUD成果報告会」開催報告と講演概要をお伝えします。



© 本社

■第12回 UD 検定初級及び第6回中級検定試験



午前9時から、IAUDがUDの更なる普及と実現をめざす活動の一環として取り組んでいる「第12回 UD 検定・初級講習会 & 検定試験」と「第6回 UD 検定・中級検定試験」が実施され、幅広い年代や職業の方々56人が受験しました。

UD 検定・初級では静岡文化芸術大学名誉教授の古瀬敏氏による講習会の後、理解度テストの試験を実施しました。

またUD 検定・中級では、公式テキストブック「知る、わかる、UD」に準拠したテストを行いました。

■瑠子女王殿下もご臨席された2015年度IAUD成果報告会

午後1時より、2015年度の各委員会及び研究部会の主な活動成果を報告する「2015年度IAUD成果報告会」が開会しました。

会場にはIAUD総裁の瑠子女王殿下にご臨席いただき、最後までご高覧いただきました。

まずは司会の北村和明情報交流センター所長より、会場内で展開されている情報保障の紹介がありました。

今回は日本語手話通訳を特定非営利活動法人の江戸川手話通訳者協会様に、音声を瞬時に入力し会場正面のスクリーンに表示するパソコン文字通訳はユビキタス様にご協力いただきました。



（真中央）

■開会の辞：清水 隆明 (IAUD 理事長)



清水理事長は、「2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、UDの必要性がますます高まっている。製品やサービスを提供する企業や、人々の生活や街づくりを担う行政にとってもUDは重要で、日本経済の活性化や社会の健全な発展に不可欠である。

本日の成果報告会では、IAUDの今年度の活動に向けた思いを会員の皆様にお伝えし、その成果を今年の国際会議で発信していきたい」と述べました。

■おことば：瑠子女王殿下 (IAUD 総裁)



瑠子女王殿下は、「私はIAUDの中で総裁というお飾りとしてではなく、きちんと行動して発信していく、という願いを持ちながら今までやっている。今後もより一層それができるよう、改めて2015年度を振り返り、2016年度に活かしたい。

父(前総裁 故寛仁親王殿下)のDNAを受け継ぐものとして、また障害者福祉や社会福祉に今まで携わってきた知識と経験を活かして、さらには若い世代として、新たな空気と風をIAUDに吹き込んでいきたい」とお話しになりました。

■講演:「クリエイティブ産業政策の現況とUD」

藤原 宗久良(経済産業省商務情報政策局生活文化創造産業課課長補佐)

クリエイティブ産業について概要や状況の説明の後、政府が取り組んでいる主なクールジャパン政策やクリエイティブ産業政策について具体的に紹介していただきました。



また、同省の主なUDへの取り組みとしてピクトグラムを挙げながらお話していただきました。

講演後には会場から多くの質問や意見があり、政府の取り組みに対して会員の関心の高さが伺えました。

※講演概要は P7 をご覧ください。

■国際UD会議について:草間 敏晴(IAUD 参事)



まずは2016年3月17日(木)に名古屋学芸大学で開催した「第6回国際UD会議2016 プレイヴェント」の報告があり、基調講演や特別セッションなどの紹介がありました。

その後、12月9日(金)から11日(日)の3日間、名古屋国際会議場で開催予定の「第6回国際UD会議2016 in 名古屋」の概要説明があり、テーマ「UDによる共有価値の創造」や予定されている主要イベントの発表がありました。

※「第6回国際UD会議2016 in 名古屋」詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.ud2016.net/index.jp.html>

■ワークショップ委員会からの報告:木暮 毅夫(IAUD 参事/ワークショップ副委員長)



2015年9月に芝浦工業大学で実施した「48時間デザインマラソン in 東京」の開催報告があり、今回はデザインを製品開発化につなげるため、各チームのプレゼンテーションを墨田区の中小企業に見ていただいたとの説明がありました。

現在もIAUDと墨田区の中小企業で製品化を進めており、この成果を今年の国際会議で発表予定であること、また2016年9月には「48時間デザインマラソン in 名古屋」を実施予定との案内がありました。

■IAUD アワードについて:西村 澄夫 (IAUD 参与)



「IAUD アワード 2015」の開催報告として、応募内訳や審査過程の様子を紹介したほか、2016年3月のプレイベント内で実施した表彰式・プレゼンテーションの報告がありました。

さらに、これまでのアワード開催を振り返り、応募数と質は年々増加しており、IAUD アワード受賞が伸びて入賞率が飛躍的に上がっていると述べました。

最後に、現在募集中の「IAUD アワード 2016」実施要領の紹介がありました。

※「IAUD アワード 2016」詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1604/22-120000.php>

■検定委員会からの報告:西川 昌宏 (IAUD 参事/検定委員長)



UD 検定の目的や特長を紹介の後、現状報告として初級認定者はこれまで600名を超え、受験者内訳もデザイン関係者から主婦や学生、高齢者まで幅広いこと、また今後は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのボランティア向けに使える資格としていきたいと述べました。

また、すでに600部を販売している中級の公式テキストブック「知る、わかる、UD」の紹介や、現在準備中の上級について説明がありました。

■研究部会からの報告

概要説明:木暮 毅夫 (IAUD 参事/研究部会長)



2014年の国際会議で研究部会が実施した6つのワークショップを紹介し、その成果として2015年度はユーザーにつながるフィールド調査やユーザー参加型ワークショップなどを実施したと述べました。

また、2015年8月の合同ワークショップでは、研究部会の組織改善が議論され、活動内容の一層の共有化と成果の有効活用のために、今後は活動体制をプロジェクトベースからテーマベースへ移行すると発表しました。

■住空間プロジェクト:宮脇 伸歩主査



活動コンセプトである「UD プラス」の説明後、仮設住宅を視察後に設定した新テーマ「日本の住宅を考える」の紹介がありました。

また、2015年度は特に防災にクローズアップし、その中でコミュニティや住戸を考えるため、2015年10月には「おばあちゃんコンシェルジュ付シェアハウス シェアネスト東横」視察、12月には「シェア金沢」視察・ワークショップの実施報告がありました。

■移動空間プロジェクト:伊藤 聡一主査



活動テーマ「誰もが行きたいところへ、安全に、快適に移動できること」の説明と、これまでに取り組んできた移動情報の調査手法の概要紹介がありました。

また、2015年9月にメディアのUDPJと合同で実施したアリゾナ州立大学とのワークショップと、2016年2月に実施した「横浜市緑園都市駅バスのピクトグラム調査」の報告がありました。

■ワークスタイルプロジェクト:室井 哲也副主査



活動テーマ「多様な働き方の調査分析」の説明後、2015年度は特に仕事の複線化とシニアの就労に着目し研究したとし、2015年8月に実施したNPO法人「二枚目の名刺」講演会の報告がありました。

さらに、今後は様々な人のワークストーリーをライブラリー化し、多様な働き方の情報発信をしていくと述べました。

■余暇のUDプロジェクト:松森 果林主査



活動テーマ「テレビCMにも字幕を」の説明後、2015年9月に実施した広告主と生活者との意見交換会の報告がありました。

また、東京都市大学学生と制作したオリジナルのCM字幕の紹介や、2013年から実施しているFacebook「CM字幕応援団」による情報発信の説明がありました。

最後に、会員企業へCM字幕の放送への協力を呼びかけました。

■衣のUDプロジェクト:佃 由紀子主査



これまでの主な活動紹介の後、現在は衣のUDパンフレット「IKIRU 衣着る」3部作プロジェクトのPart2「こころとからだ」を編集中で、今年の国際会議で配布予定との案内がありました。

また、2015年10月には東北福祉大学で実施した「衣服にできること～命を守る、暮らしの質を上げるための衣服～」をテーマにした東北仙台セミナーの報告がありました。

■メディアの UD プロジェクト:宇津木 希副主査



活動テーマ「文字、書体、サイン」について、より多くの人に誤認、誤解なく社会へ提言と発信を目指すため、「伝わる」を追求しているとの説明後、2015年10月に中部地方でカラーUDに取り組んでいる企業3社を視察した事例研究の報告がありました。

また、2015年9月に移動空間PJと合同で実施したアリゾナ州立大学とのワークショップの報告がありました。

■手話用語サブワーキンググループ:仁宮 浩



活動テーマ「グローバルボディランゲージを提案する」の説明後、2015年8月に開催された「第35回全国ろう学生の集い」にて実施したワークショップ「災害緊急時コミュニケーションを考えよう！」と、10月に筑波技術大学で実施したワークショップ「いざ！という時のボディランゲージについて考えてみよう」の報告がありました。

最後に、2つのワークショップの様子を撮影したビデオを公開しました。

■標準化研究ワーキンググループ:深野 さゆり



2015年10月に東京都江東区立第六砂町小学校で実施した「UD体験ワークショップ」の報告と、その際に使用した子ども向けテキスト「UDってなんだろう？」を紹介しました。

さらに、学校の先生方が今後はいつでも「UD体験ワークショップ」を実施できるように作成した、マニュアルをアニメーション化したパワーポイントを会場で披露しました。

■閉会の辞:鬼頭 修(IAUD 理事)



最後に閉会の辞で、すべてのプログラムが終了しました。鬼頭理事は、「藤原様からはクールジャパンなどの取り組みについて有益な情報を賜り、大変内容のある講演会になった。

IAUDは関係省庁との関係を一層強化し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて日本発のUDを世界にしっかり発信していきたい。

また、本日は2015年度の重要な取り組みが報告され、今後の活動の方向性の確認につながった。皆様方からのコメントをしっかりと踏まえ、今年の国際会議につないでいきたい」と締めくくりました。

■交流会／各委員会・研究部会のパネル展示



成果報告会終了後、NEC 芝倶楽部にて交流会が行われ、会員間での親交を深めました。
また、会場入り口には各委員会及び研究部会の活動を紹介したパネルや成果物などが展示され、休憩時間には参加者が熱心に鑑賞していました。

※「2015 年度 IAUD 成果報告会」での委員会や研究部会のレポート(会員限定)は追って Web サイトに掲載いたします。

日本の魅力を海外へ発信

講演概要「クリエイティブ産業政策の現況とUD」

藤原 宗久良(経済産業省商務情報政策局生活文化創造産業課課長補佐)

拡大するクリエイティブ産業市場

クリエイティブ産業は、生活者の感性に働きかけ、感動や共感を得ることによって顕在化する「感性価値」を重視した産業です。デザインだけでなくコンテンツやファッション、食や観光、地域産品など感性価値に着目すべき分野は広がっています。

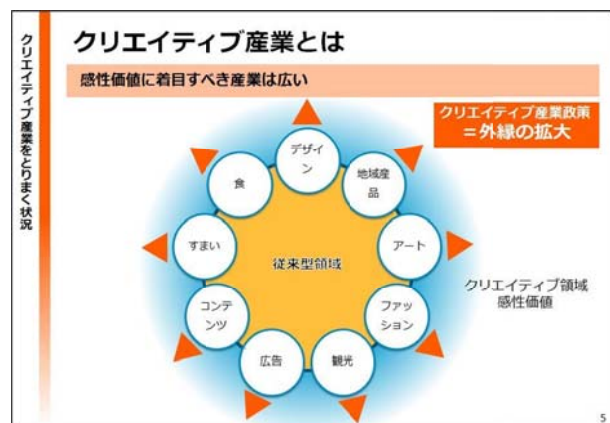
日本の魅力を海外に発信するクールジャパン戦略推進の一環として、生活文化創造産業課ではクリエイティブ産業に取り組んでいます。注目されるクリエイティブ産業の現状は以下のとおりです。

コンテンツ: 国内市場は横ばいですが、海外からは高い評価を得ています。今後は日本のコンテンツの価値を活かし、海外からの収益を獲得していくことが重要です。

ファッション: 少子高齢化や人口減少で国内市場は縮小しています。内需依存体質から脱却し、拡大しているアジア市場での需要獲得が課題となっています。

日本食: 世界では日本の「食」が非常に注目されています。海外の日本食レストラン数は近年で 1.5 倍に増えており、好きな外国料理では日本食が選ばれることが多くなっています。

観光: 訪日外国人数は 2015 年には約 2000 万人と過去最高を更新し、旅行消費額も増加しています。海外からの観光客に日本で消費していただく、そこから日本経済が発展化していく



のです。

デザイン: デザイン業の売上高は減少していますが、日本企業の国際デザイン賞受賞は増加傾向にあります。業界の売り上げから日本のデザインは衰えているイメージを持ちますが、一方で世界では評価されているのが現状です。

政府の成長戦略「日本再興戦略 2015」では、官民一体となってクールジャパンに取り組むことを目的として、官民・異業種連携の強化を図る場となる「クールジャパン官民連携プラットフォーム」を設立しました。

このプラットフォームの下で、コンテンツや食、観光、伝統工芸品など多様な関連事業者が参加するマッチングフォーラム(仮称)を開催し、横断的に相乗効果をうむことが狙いです。



参加者

日本の魅力を海外展開するために

クールジャパン政策は、国内人口の縮小や従来型産業のピークアウトにより内需が減少している中、コンテンツやファッション、地域産業、サービスなど日本の魅力を展開し、海外需要の獲得と共に関連産業の雇用を創出することを目標としています。

しかし、クリエイターやデザイナー、中小企業の中には海外拠点がない、資金調達が困難等の理由により、海外展開が課題となっています。

そこで、経済産業省ではクールジャパン政策を民間のビジネスにつなげ、世界へ広げて継続的なビジネス展開させることを支援しています。

戦略的な海外展開として、まずは海外で日本ブームを創出し、日本のよいものを現地販売するルートを作る、そして日本に来てくれた方に日本での消費につなげる、というものです。

さらに、リスクマネーの供給や海外におけるビジネスモデルの構築、海外展開できる人材育成に寄与するなど、クールジャパン分野を専門的にサポートするために、2013年にはクールジャパン機構(株式会社海外需要開拓支援機構)が設立されました。

同機構では、民間と政府が出資してクールジャパンファンドを作り、このファンドから出資した事業会社が様々なクールジャパン戦略の事業投資をしています。

インフルエンサー招聘事業: 海外の小売事業者や消費者等に対し影響力を与える人材(海外メディアやブロガーなどインフルエンサー)を日本各地へ招聘し、彼等のツールを活用して地域資源の魅力を海外発信しています。

映像アーカイブ「meet the FURUSATO」はこちらをご覧ください。

<https://www.youtube.com/channel/UC4nH-RuBMUQkcs13IeDhYiQ>

地方再生につなげるローカルクールジャパン

政府は日本各地の魅力的な地域資源を海外市場に展開し、地域再生につなげるプロジェクトをローカルクールジャパンとして、以下のような事例に取り組んでいます。

「NIPPON QUEST」: 中小事業者などが訪日外国人に紹介したい「ふるさと名物」をウェブサイトに掲載し、国内外ユーザーから高く評価された「ふるさと名物」を表彰します。また、見本市

やイベント等を通じて国内外へ PR することも支援しています。<https://nipponquest.com>

「Sakefan World」:外国人に人気の日本酒に注目。日本酒ラベルをスマートフォン向けアプリで読取ることによって、アルコール度数や飲み方、背景にあるストーリーや製造元の酒蔵情報などを消費者に対し多言語で発信するためのアプリです。<http://sakefanworld.info#>

「MORE THAN プロジェクト」:海外でビジネスを展開したい中小企業に、市場調査や PR、流通まで一貫してプロデュースする人材にかかる費用やネットワークを支援することで、中小企業の海外展開の具体的な進展を目指しています。

「The Wander 500」:日本各地にある「ふるさと名物」(ものづくり、食、観光体験の地域資源など)を 500 個まとめて海外に PR し、販路を開拓して地域経済を活性化するものです。

クールジャパンでのクリエイティブ産業政策

生活文化創造産業課で取り組んでいるクリエイティブ産業政策を幾つか紹介します。

ファッション政策:日本のファッションやデザイン産業の海外進出を応援したり、ブランド価値向上やデザイナー育成に努めています。

また、日本のファッションデザインの素晴らしさを海外に発信する「ファッション・ウィーク東京」開催を応援しています。

デザイン政策:3つの柱で、下記のような様々な事例に取り組んでいます。

①経営者がデザイン投資の効果を認識し、デザインを経営の中核で活用。

②Design Thinking ができる人材等を育てるため、領域融合的な教育や実践的な人材育成。

③世界に日本のデザインを PR。

・グッドデザイン賞:日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の運動。「優れたデザイン」を社会に普及させていくことで、人々の生活をより豊かにし、産業の発展を後押しします。

・キッズデザイン:子どもを安心して産み育てられる成熟社会を実現し、子どもの感性や創造性を豊かに育む持続可能な社会をデザインすることを推進します。

・デザイン思考(デザインシンキング)の活用:企業活動におけるイノベーションの誘発や、問題解決の手段となるデザイン思考を企業活動に取り入れるため、経営者の理解と新規事業への投資を行う組織作りに取り組んでいます。

・「デザイン政策ハンドブック」:デザイン政策をまとめたもので、具体的施策や他国の事例、地方での取り組みについても紹介しており、デザインに関わる情報を広く網羅するガイドブックとなっています。

http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/human-design/reports.html



デザインを活用した文化と経済の融合

オリンピックはスポーツのみならず、文化の祭典として位置づけられています。

2012年のロンドンオリンピックでは北京五輪終了時から4年間、英国全土で「カルチュラル・オリンピアド」を開催し、様々なプロジェクトを実施しました。

これは経済や雇用効果だけでなく、健康や社会生活の改善など社会的な価値にも大きな効果を生みました。

そこで、日本政府では文化 GDP の拡大のため、文化に密接に関連したデザインやコンテン

ツへの投資を通じて、他産業分野への経済波及効果を生み出すことを図っています。

先述した「MORE THAN プロジェクト」など、文化価値をストーリー化して商品やサービス等を開発し市場を開拓するなど、文化価値を経済価値に変えていく取り組みを考えているところです。

経済産業省の UD への取り組み

IT技術:ロボット関連の先端テクノロジーを将来、介護の現場や障害者の活躍に応用していくことが最近は増えてきています。

グッドデザイン賞:経産省がこれまで後援してきた同賞においても、UD の考え方を取り込みつつ、商品価値を更に高める付加価値となるデザイン性を付した賞品が昨年は大賞に選ばれており、社会全体の関心が高いことがうかがえます。

ピクトグラム:1964年の東京オリンピックでは、初めてピクトグラムが競技場に用いられました。2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでピクトグラムの見直し・統一化に向け、現在関係省庁と連携し推進しています。(了)



IAUD
AWARD

一人でも多くの人々が快適で暮らしやすい UD 社会の実現を推進 IAUD アワード 2016 募集開始のご案内

IAUD は、UD 社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体や個人を表彰する「IAUD アワード 2016」を実施いたします。

今回もUDにおいて一定のレベルを満たしていると審査委員会が判断したものに対して「IAUD アワード」を授与し、「IAUD アワード」マークを UD の普及啓発のために使用できます。

また、12月に開催される国際会議内で表彰式及びプレゼンテーションを実施します。

第1次審査の応募締め切りは7月15日(金)です。皆様の応募をお待ちしております。

※「IAUD アワード 2016」詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1604/22-120000.php>



式の様子
(学)



論文の募集開始

「第6回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」開催のご案内

IAUD は、「第6回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」を12月9日(金)から11日(日)までの3日間、名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)において開催します。

今回の会議テーマ「ユニヴァーサルデザインによる共有価値の創造」のもと、国内外の参加者の活発な意見交換と相互交流を通してより質の高いUD社会の実現をめざします。

この度、論文要約(アブストラクト)の募集も開始しました。締め切りは6月15日(水)です。どうぞ奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

※「第6回国際UD会議 2016 in 名古屋」詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.ud2016.net/index.jp.html>



福島&東京
会場)



6月の予定

6月8日現在

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7 13:30~ 情報交流センター @IAUD サロン	8 10:00~ ワークスタイル PJ @IAUD サロン	9	10 HCD-Net フォーラム 2016 協賛 @東海大学高輪キャンパス	11	12
13 15:00~ 第1回理事会 @NEC 本社	14	15 アブストラクト締切 14:00~ メディアの UDPJ @CUDO	16 14:00~ 衣の UDPJ @IAUD サロン	17 13:00~ 検定委員会 @IAUD サロン	18	19
20	21	22	23	24 13:30~ 手話用語 SWG @そな東京エリア 標準化研究 WG @IAUD サロン	25	26
27	28 13:30~ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	29	30 16:00~ 第1回評議員会 @NEC 本社	1		

次号は7月上旬発行予定

特集(予定): 余暇のUDPJ オリジナル字幕 CM 上映会開催報告ほか

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : info@iaud.net